

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 1 日

所 属 生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名：小野澤裕也 職位：准教授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

1 年次に生理学の基礎を学び、生体に関する基礎生理学の知識を定着させる。

2 年次に基礎的な生理学に関する知識と、実際の臨床検査の基本的な結びつきを理解し、実習を通して、比較的取得しやすい基本的な検査手技を習得する。

3 年次に 1 年次に学んだ基礎生理学の 教師として何に責任を負っているかを明確にし、自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。

| 科目名 | 学科・専攻 | 必, 選, 自 | 配当年次 | 受講者数 |
|------------|----------|---------|------|-------|
| 生理学 I・II | 臨床検査技術学科 | 必修 | 1 | 約 100 |
| 基礎教養科学演習 | 臨床検査技術学科 | 必須 | 1 | 約 100 |
| 基礎化学実験 | 臨床検査技術学科 | 必須 | 1 | 約 100 |
| 生理学実習 | 臨床検査技術学科 | 必修 | 2 | 約 90 |
| 臨床生理学 I・II | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 約 90 |
| 臨床生理学実習 | 臨床検査技術学科 | 必修 | 3 | 約 90 |
| 総合臨床検査学演習 | 臨床検査技術学科 | 選択 | 4 | 約 80 |
| 卒論指導 | 臨床検査技術学科 | 選択 | 2-4 | 約 20 |

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

1. 生理学を通じて得た知識から、さまざまな疾患への理解を深め、そのためにはどのような検査が必要なのか、正確な診断のためにはどのような技術が必要なのかを体感して知ることで、臨床実習や国家試験に対する勉強への意識を高める。

実際に臨床の現場で活躍する臨床検査技師になるためには、国家試験取得および就職後も学び続ける必要があることを知るとともに、医療者として社会に貢献できる職種を希望し、進学したことに自信を持たせ、継続的に努力することの重要性を理解させたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

1年次の基礎生理学を学ぶときから、その背景にある代表的な疾患についての原因や病態を解説し、今学んでいる内容がどのように臨床検査に活かされていくか体感しながら講義する。

2年次の生理学実習では、基礎的な技術であっても習得することが難しいことを知り、3年次以降の臨床生理学へのモチベーションを高める。

3年次の臨床生理学および実習では、実際の検査方法に加え、正常所見、異常所見を理解し、その異常所見を見出すためにどのような技術が必要なのか、検査の難しさと興味深さを並行して体験させる。

3年次の臨床生理学2は対面試験となったため、集中的な学習機会を得させることができた。

アクティブラーニングについての取組

事前に資料を配布し、予習する機会を与え、講義にディスカッションする時間を確保する。

実習ではグループで作業する機会を作り、同級生と助けあいながら実習を終了させる経験をさせる。

ICTの教育への活用

生理学I・IIでは、毎回の講義終わりにGoogleformを利用した小テストを実施し、知識定着に活用した。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業、実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（A）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

⑤双方向授業への工夫（B）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

国家試験対策の講義を行い、試験に必要なポイントを重点的に講義した。また、質問がある場合は、常時受付可能とし、研究室で対面的、またはメールでのやりとりで回答することで、理解を深めさせた。

また、実際の臨床の現場で働いていた経験から、臨床検査技師国家試験に合格することは、あくまで登竜門であり、実際にライセンス取得後の方がはるかに大変であること、大変ではあるがその努力によって自身の技術が磨かれ、疾患の発見に寄与し、直接的に医療に貢献できる素晴らしい仕事であることを伝え、勉強に対するモチベーションを高められる様意識付けした。

5. 学生授業評価

| |
|---|
| <p>①<u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>マイクの音声が聞きにくいとの意見があったので、機器を更新し改善した。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。学生から問題がないことを確認した。</u></p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u></p> <p>常に学生からの意見を真摯に受け止め改善していく。</p> |
| <p>6.学生の学修成果</p> <p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p><u>(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)</u></p> <p>1年次の生理学では、受験時に化学を選択していた学生が理解に苦慮することが多いため、講義毎に課題を与え、週内に提出することとした。</p> <p>また、中間試験を行い、期間中に集中して勉強する機会を作り、自分の知識の足りない分野を把握できるよう努めた。</p> <p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</p> <p>学生からの講義内容に関する評価は特に問題はなく、今後も勉強意欲が湧く講義を心がけたい。</p> |
| <p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p> <p>FD 研究会に参加し、他の先生方とディスカッション内容を含めて TP の改善を行った。</p> <p style="text-align: right;">※分量の目安：1～2行 (40字～80字)</p> |
| <p>8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)</p> <p>1年生では高校の理科選択に関わらず将来的に必要な知識を定着させる講義を実践しする。</p> <p>3年生では臨床検査技師として必要な心構えを理解させた上で、各論の知識技術を習得させる。</p> <p>4年生の総合臨床検査学演習では、国家試験に全員が合格することを目標とする。</p> <p style="text-align: right;">※分量の目安：3～6行 (120字～240字)</p> |
| <p>9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ</p> |

*A4 4枚程度 (A4 1枚(目安 1行 40文字×36行 1440文字))